

防火安全対策チェックシート

確認者	施設名			
	職種		氏名	

火災発生の予防対策《火気管理など火災の発生を予防する対策》

※対策の取れているものにチェックを付けること

<input type="checkbox"/>	(1)火災発生の予防対策《火気管理など火災の発生を予防する対策》
<input type="checkbox"/>	(2)たばこ、ライター等の管理や喫煙場所の管理を徹底する。
<input type="checkbox"/>	(3)吸いがらは、水につけてから捨てるなど適切に処理する。
<input type="checkbox"/>	(4)各個室で燈明、ろうそく等の裸火や線香を使用しない。
<input type="checkbox"/>	(5)火気器具(コンロ等)は台所等の所定の場所以外では使用しない。
<input type="checkbox"/>	(6)過熱防止装置が付いたガスコンロを使用する。
<input type="checkbox"/>	(7)各室の暖房器具を適切に管理する(裸火となるストーブ等は持ち込まない。)
<input type="checkbox"/>	(8)火気設備、火気器具、暖房器具と壁等の距離を適切に確保する(可燃物は遠ざける。)
<input type="checkbox"/>	(9)暖房器具の周囲に燃えやすいものやスプレー缶等を放置しない。
<input type="checkbox"/>	(10)火気の使用中は、人がその場を離れない。
<input type="checkbox"/>	(11)プラグ等の蛸足配線を禁止し、清掃を定期的実施する。
<input type="checkbox"/>	(12)電気コードを折れ、よじれ、傷、半断線等が生じないように使用する。また、電気コードは家具等の下敷きとならないように使用する。
<input type="checkbox"/>	(13)許容電流の範囲内で電気器具を適正に使用していることを確認する。
<input type="checkbox"/>	(14)ふろがま、給湯器やガスコンロ等の火気設備を日常的に点検・清掃する。
<input type="checkbox"/>	(15)白熱灯など熱を持つ照明設備・照明器具は、熱を蓄えるものと接触させない(タオルをかける、衣類が接触しているなどは避ける。)
<input type="checkbox"/>	(16)正常に作動しない電化製品、火気設備等はそのまま使用しない。
<input type="checkbox"/>	(17)屋外でたき火やごみの焼却を行わない。
<input type="checkbox"/>	(18)施設の外周部に燃えやすいものを置かない、照明を設けるなど放火防止対策を行う。

延焼拡大の抑制対策《火災の拡大を防止し、又は、煙の拡散を防止する対策

<input type="checkbox"/>	(19)くさび等で戸を閉まらない状態としない。物品等による戸の閉鎖障害が生じないように管理する。
<input type="checkbox"/>	(20)壁及び天井の室内に面する部分の全てを不燃材料、準不燃材料又は難燃材料で仕上げる。
<input type="checkbox"/>	(21)寝具(ふとん、ベッドパッド、枕、マットレス、毛布、ベッドスプレッド、タオルケット等)・布張り家具を防災性能を有するものにする。
<input type="checkbox"/>	(22)居室に可燃物を多量に持ち込まない。
<input type="checkbox"/>	(23)施設内に暖房器具に使用する灯油等を原則として持ち込まない。又は、適切に管理する。
<input type="checkbox"/>	(24)常時閉鎖式又は煙感知器連動閉鎖式の戸を設け、区画(襖、障子等による仕切りは除く。)を形成する。
<input type="checkbox"/>	(25)建物内の延焼拡大を防ぐために1区画(※)以上を形成する。
<input type="checkbox"/>	(26)その他施設の実態にあった延焼拡大を抑制する対策を実施する。

※不燃化区画とは、室内に面する壁部分、床部分の仕上げが準不燃材料以上でされているものであり、かつ、常時閉鎖式防火設備又は煙感知器連動閉鎖式防火設備若しくは準不燃材料以上で作られた常時閉鎖式又は煙感知器連動式の戸を設けたものである。防火区画も含まれる。

早期発見・初期消火の対策《火災を早期に発見し、消火活動等を行うための対策》

- ☐ (27)自動火災報知設備、運動型住宅用火災警報器等を設置し、維持管理する。
- ☐ (28)受信機等の付近に職員が常駐する。
- ☐ (29)スプリンクラー設備(住宅用を含む。)を設置する。
- ☐ (30)台所等の火気設備付近に自動消火装置を設置する。
- ☐ (31)各階の消火器を増強する。
- ☐ (32)全ての職員に施設にある消火器や消火設備の使用方法を周知し、訓練を実施する。
- ☐ (33)その他施設の実態にあった火災を早期に発見する対策、初期消火の対策を実施する。

早期通報の対策《消防機関へ火災を早期に通報するための対策》

- ☐ (34)消防機関へ通報する装置を設ける。
- ☐ (35)消防機関へ通報する装置を自動火災報知設備等と連動させる。
- ☐ (36)通報・連絡を行うための装置(携帯電話、コードレス電話の子機、インターホン等)を設置する。
- ☐ (37)その他施設の実態にあった早期通報の対策を実施する。

避難・避難介助の対策《避難や避難介助を行うために施設等で実施する対策》

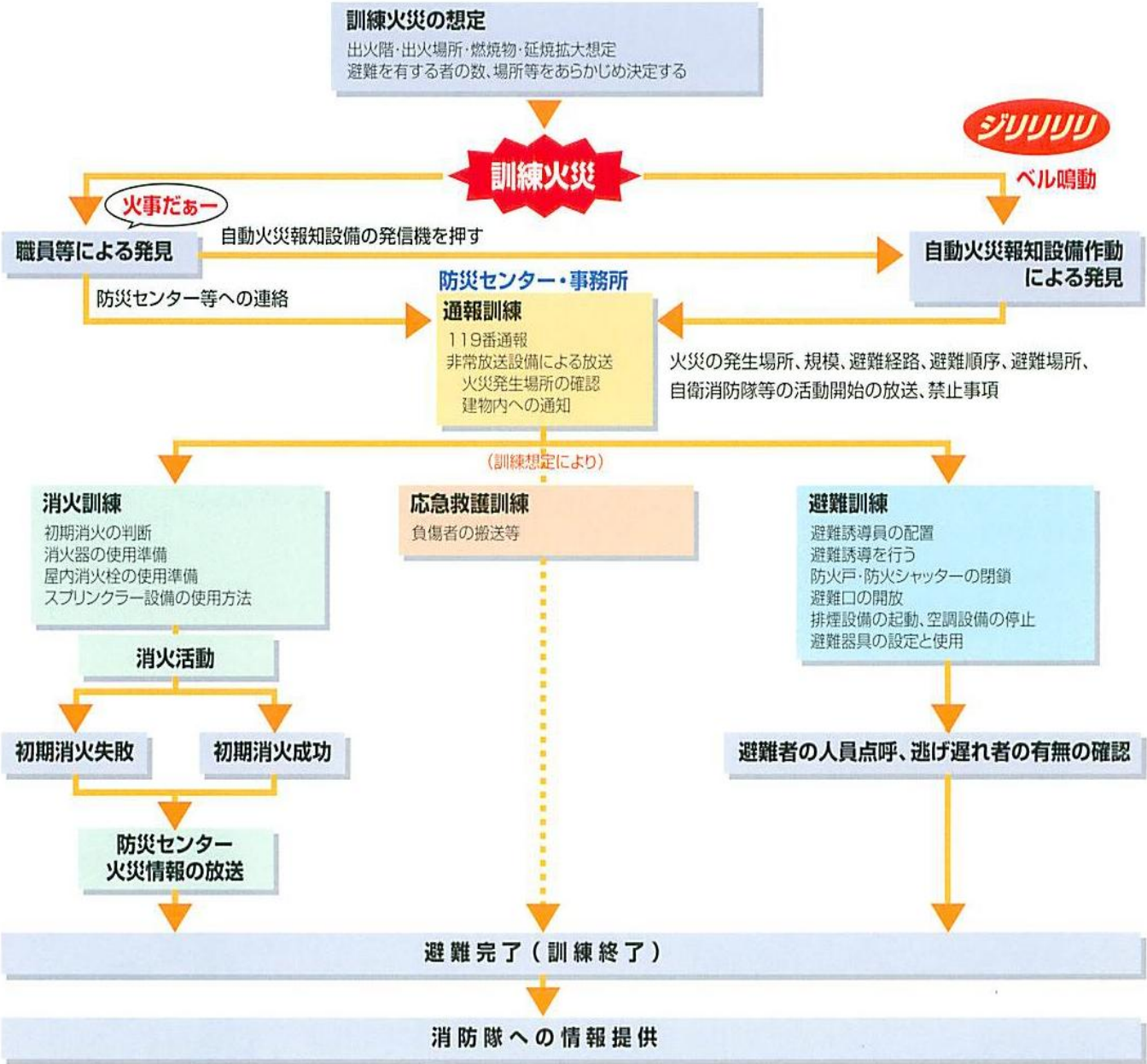
- ☐ (38)ベランダ等に避難器具(すべり台等)を設けるなど、2系統以上の避難経路を設ける。
- ☐ (39)一時的な避難場所や避難経路のスペースを広げる。
- ☐ (40)施錠された出入口は自動火災報知設備等と連動して解錠するものにする。
- ☐ (41)搬送・歩行の障害となる段差をなくす。
- ☐ (42)室内や避難経路となる廊下、階段等に避難障害となる物を放置しないよう管理する。
- ☐ (43)避難時に車イス等を利用する者の周囲に常に車イス等を用意しておく。
- ☐ (44)避難時に使用する予定の昇降装置(エレベーターを除く。)等を停電時も使用可能なものに替える。
- ☐ (45)火災に伴う停電時も避難経路の照明が確保される設備・器具を設ける。
- ☐ (46)火災時に近隣から駆けつける協力者、従業員等を確保する。また、宿直等の人員を適切配置するなど職員等の配分の適切化を図る。
- ☐ (47)近隣協力者等へ連絡する設備を設ける(更に、これを自動火災報知設備等と連動させる。)
- ☐ (48)近隣の事業所、町会等と災害時の応援協定を結ぶ。
- ☐ (49)火災時に外部にもその旨を連絡する音響装置を設ける。
- ☐ (50)訓練等により職員等の行動の迅速化や相互の連携強化を図る。
- ☐ (51)すべての職員に施設にある避難設備の使用方法を周知し、訓練を実施する。
- ☐ (52)自力避難困難者の居室等に近接した所に職員等の事務室や待機場所等を設置する。
- ☐ (53)自力避難困難者の居所を避難が容易な場所に変更する。
- ☐ (54)その他施設の実態にあった避難・救助の対策を実施する。

総合訓練の流れ

訓練の種類

通報・連絡訓練
消火訓練
避難訓練
総合訓練

119番の通報のしかたや、火災を発見してから119番通報を行う
建物内に設置してある消火器や屋内消火栓の操作方法を習得する
避難施設・設備の位置、操作方法を習得し、避難者を階段などの避難経路
を使って安全な場所まで避難誘導する
火災を想定し、1～3の訓練を自衛消防組織に基づく任務に従い、火災の発
見から到着した消防隊への情報提供を行う。
※事前に消防署への御連絡をお願い致します。



最後に

危機管理に対し、前向きであること。
訓練の積み重ねが安全・安心につながります。
訓練では失敗を恐れない。次回の訓練につなげることが大切です。
訓練はPDCA (plan→do→check→action) が大切です。
訓練したら反省会(検討会)を実施して、感想などを率直に述べ合い、次の訓練に生かしましょう。
また、訓練実施記録をとりましょう。
「火災を起こさない」「計画を立てて実行する」「被害を最小限にする」
何事も備えあれば憂いなし!



通報・連絡訓練

- 発見者から「火災」の連絡を受ければ、
- ・消防機関への確実な「119番通報」を実施し、火災の規模などを詳しく伝える。
 - ・自衛消防隊、在館者への非常放送等を迅速的確に行う訓練を実施します。



消防訓練で119番通報する場合

- 1・事前に消防局の消防管制室(333-0119)に訓練通報する住所、対象物名、時間等を連絡してください。
- 2・その後、実際に119番通報を行い、係員につながると「訓練通報です」と第一声で2回繰り返し伝えてください。その後は、消防管制室の係員の指示に従ってください。

■ 119番のかけ方 ■

通報者	消防局管制室
落ち着いて119番を押(ダイヤル)します。	「はい、119番消防本部です。
	「火事ですか・救急ですか?」
「火事です」または「救急です。」	「場所はどこですか?」
「〇〇区〇〇町〇丁目〇番〇号です。」	「何が燃えていますか」
「〇〇が燃えています。」	「近くに目標となるものは、ありますか?」
「〇〇の東(西・南・北)側です。」	「あなたのお名前と電話番号は?」
「〇〇です。電話は〇〇〇-〇〇〇〇」です	「分かりました。すぐ消防車が向かいます。」

消火訓練 ～ 火災を早期発見し、被害を最小限にとどめる

- ・初期消火は、自衛消防活動の中でも非常に重要な活動であり、消火器具の設置場所の確認や機能等について習熟させることを目的とし、消火器や屋内消火栓などの使い方を覚えたり、実際に使ったりする訓練です。
- ・消火器は、初期消火の段階で大きな役割を果たします。
- ・いざというときにあわてないために確実に使用できるようにしておきましょう。

【初期消火の限界】

普通、私たちが消火器で消火できる初期消火の限界は、炎が天井に達するまでです。

(ただし、煙が多い場合は、早めに避難しましょう)

炎が天井に広がると初期消火は困難なので、避難することを考えましょう。

【初期消火のポイント】

できるだけ姿勢を低くして、煙や熱から身を守るように構える。

逃げ口等の避難路を確保して消火しましょう。

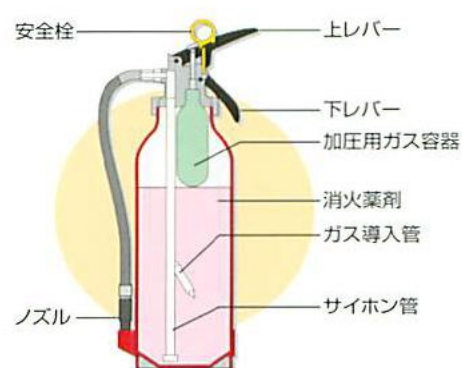
●消火器の取り扱い訓練

(1) 消火器の種類、構造、消火能力、使用方法等の説明

①構造面から加圧式と蓄圧式(圧力ゲージがある)とに区分されます。

■ 加圧式消火器の構造は右のようになっています。

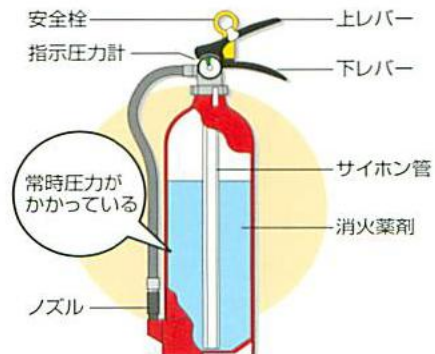
使用法は、安全ピンを抜いて、レバーを握ると、カッターが加圧用ガス容器の封板を破り、加圧用ガス容器内のガスが、ガス導入管を通して、容器内の粉末消火剤を攪拌し、その圧力で消火剤が吐出管・ホースを通してノズルから噴出します。



加圧式消火器

■ 蓄圧式消火器の構造は右のようになっています。

外観は、加圧式消火器とほぼ同じですが、消火器内部には常時圧力がかかっており、消火器の圧力を示すゲージがついています。使用法は 加圧式消火器とほぼ同じです。違いは、加圧式消火器は、消火剤が噴出すると止まらないのに対して蓄圧式消火器は、レバーを戻せば止めることができます。

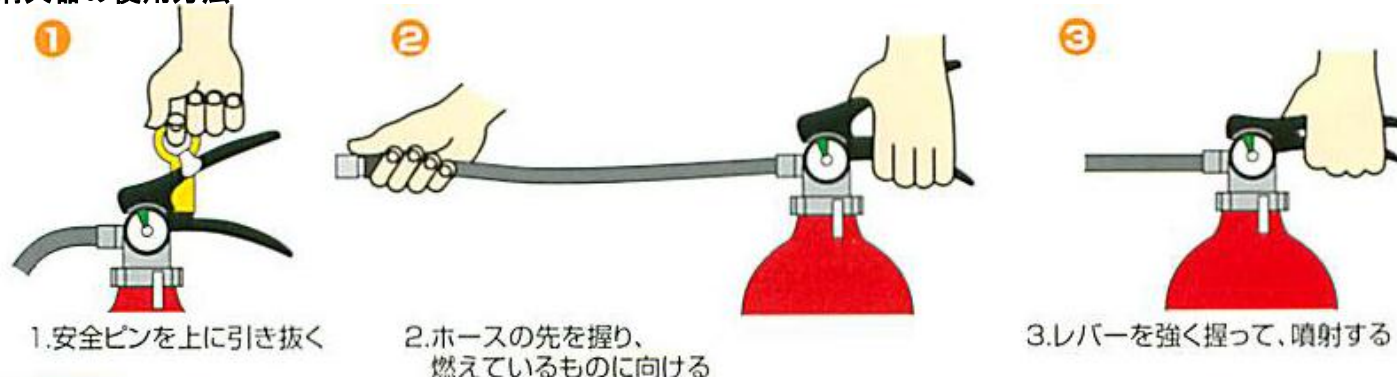


蓄圧式消火器

②中身の消火剤から粉末消火器、強化液消火器、炭酸ガス消火器等に区分されます。

③放射時間は、消火器の種類や薬剤の量により異なりますが、粉末消火器で15秒～18秒程度です。放射時間や放射距離は本体に必ず表示してありますので、日頃から確認しておきましょう。

※消火器の使用方法



避難訓練

火災の際に、避難階段、避難設備や避難器具の設置場所を把握していなかったり、その使用方法を知らなかったために、適切な誘導ができずに、大惨事を招いてしまったという事例があります。

火災時に、避難者を秩序正しく迅速に安全な場所へ誘導するため、避難経路の決定、避難方法の伝達、パニック防止、非常口の開放、逃げ遅れた人の人数確認等を考慮して行う訓練です。

階段などの避難経路を使って安全に避難してみるほか、避難器具などの使い方を覚えます。

訓練ステップ1

あなたの事業所に設置されている避難設備の位置を確認しましょう。

「非常口」「避難階段」「避難器具」等、非常時に建物の外に避難するための設備を探してみましょう。

（「非常口」「避難階段」の上には誘導灯があります）

訓練ステップ2

実際に「非常口」「避難階段」を通して避難してみましょう。

（※通路や階段に物が置かれていませんか？防火戸の前に物を置いたり、詰め物をしていませんか？）

訓練ステップ3

建物内の人を確実に「避難誘導」しましょう。

多数の人が利用する建物では、一斉に「早く逃げたい!」と慌てて出口に殺到するという「**パニック状態**」が発生することがあります。

●パニック状態を防ぐポイント

①人々の不安を抑え、落ち着かせる

職員の「落ち着いてください」という一言で安心するものです。

備えられた放送設備を有効に活用し、情報を伝えると共に避難誘導を指示します。

②順序よく、効率的に避難誘導する

- ・放送設備を用いた適切な避難誘導
- ・誘導員の適切な位置への配置
- ・携帯型拡声器などを用いた避難の指示



訓練ステップ4

消防隊への情報提供

現場の詳しい状況（逃げ遅れた人の有無、けが人の有無、消防隊の活動障害）

※廊下や階段等に物を置いていませんか？もう一度チェックしましょう。

非常災害時簡易備蓄チェックリスト

備品関係

項目	チェック	有無	数量
懐中電灯	電気が止まった際に使用	<input type="checkbox"/>	
乾電池	予備として	<input type="checkbox"/>	
ラジオ	災害情報の収集	<input type="checkbox"/>	
メガホン	外部との連絡	<input type="checkbox"/>	
ブルーシート	場所とプライバシーの確保	<input type="checkbox"/>	
ガムテープ	ゴミをまとめる、ガラス飛散防止	<input type="checkbox"/>	
携帯用トイレ	水道が付けない際に	<input type="checkbox"/>	
おしりふき	清潔を保つため	<input type="checkbox"/>	
ゴミ袋	ゴミだけでなく、カーテンの代わりに	<input type="checkbox"/>	
お手拭き	清潔を保つため	<input type="checkbox"/>	
フェイスタオル	体ふき等に使用	<input type="checkbox"/>	
バスタオル	毛布・ブランケット代わりに使用	<input type="checkbox"/>	
毛布・ブランケット	布団の代わりに、冷えの防止	<input type="checkbox"/>	
歯磨きセット(口腔ケア)	清潔を保つため	<input type="checkbox"/>	
アルコール消毒液	消毒	<input type="checkbox"/>	
雨具	冬季は特に防寒具として	<input type="checkbox"/>	
衣類	着替え	<input type="checkbox"/>	
マスク	風邪等の防止	<input type="checkbox"/>	
トイレットペーパー		<input type="checkbox"/>	
ポケットティッシュ等		<input type="checkbox"/>	
ウェットティッシュ		<input type="checkbox"/>	
紙おむつ		<input type="checkbox"/>	
パット		<input type="checkbox"/>	
カセットコンロ・ボンベ	非常食用として使用	<input type="checkbox"/>	
※救急セット等医薬品	緊急時に使用	<input type="checkbox"/>	
アルミブランケット	保温性の高い物を	<input type="checkbox"/>	
生活用水	飲料以外で使用するもの	<input type="checkbox"/>	
ロープ	救助活動や括る場所があればカーテンとして	<input type="checkbox"/>	
ろうそく	電気が止まった際に使用	<input type="checkbox"/>	
シャベル		<input type="checkbox"/>	
軍手		<input type="checkbox"/>	
紙皿	食事用	<input type="checkbox"/>	
紙コップ	食事用	<input type="checkbox"/>	
割りばし・スプーン	食事用	<input type="checkbox"/>	
※冬季 使い捨てカイロ	防寒	<input type="checkbox"/>	

食料品

項目	チェックポイント	有無	数量
乾パン		<input type="checkbox"/>	
アルファ米		<input type="checkbox"/>	
缶詰	魚や果物等	<input type="checkbox"/>	
カップラーメン		<input type="checkbox"/>	
飲料水	1人1日3ℓ	<input type="checkbox"/>	
ゼリー飲料	栄養補給用	<input type="checkbox"/>	
即席めん	コンロにて使用することも	<input type="checkbox"/>	
経管栄養食		<input type="checkbox"/>	
レトルト食品		<input type="checkbox"/>	
レトルトミキサー食		<input type="checkbox"/>	
フリーズドライ食品		<input type="checkbox"/>	
とろみ剤		<input type="checkbox"/>	
お茶		<input type="checkbox"/>	
ジュース		<input type="checkbox"/>	